

○議長（高橋正博君）

8番 福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

8番、日本共産党 福本耕太です。早速、質問に入らせていただきたいと思います。

学校給食無償化および負担軽減の実施をとということで、今年の4月に開かれました教育民生常任委員会の中で、委員全員の総意として学校給食無償化に向けた取り組み、保護者への負担軽減をとということで意見が示されました。

町も検討する姿勢を見せておりますが、その後、進捗状況はどうなっているでしょうか。まず、答弁を求めます。

○議長（高橋正博君）

教育総務課長 佐伯浩二君。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

学校給食の無償化につきましては、今年6月の教育民生委員会で、土庄町の現状と方針をご説明したところ、福本委員をはじめ委員各位からさまざまなご意見を頂戴しましたので、その後の内部協議や定例の教育委員会で、他市町の状況も勘案しながら協議を行いました。

議論を重ねていく中で、年間約4000万円の経費を将来にわたって町が負担し続けていくことになるため、慎重に検討しなければならないこと。就学援助制度で収入の低い世帯にはすでに給食費の9割を免除していること。それから、小豆島町が無償化を実施する一つの理由となった未収金に係る業務負担が、本町では発生していないこと。県内で無償化を実施あるいは予定している市町は、現在のところ3市3町であることなどを総合的に勘案した結果、現段階では給食費を無償化することは困難で、原材料費の負担を今後もお願いしていかざるを得ないとの結論に至っております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

年間4000万かかるという話と、9割免除の話、それから未収金に係る業務負担が土庄町では起きてないという話がありました。

すいません、その前に6月議会でしたね、6月委員会ですね。すいません、私さっき、4月って言いましたけど6月の教育民生常任委員会ですね、中で、委員会として前向きに進めてほしいという話をしたと思います。

子どもの多い世帯ほど給食費の負担が多くなるというふうに現実になると思うんです。例えば、小学校1年生、2年生、3年生、4年生の子どもの

4 人がいる家庭だったとしたら、補助とかですね、免除があったとしても、子どもが多ければ多いほど、給食費の親の負担が重くなるんじゃないかなと思うんですけど、実情それについてはどうでしょうか。そうなってませんか。

○議長（高橋正博君）

教育総務課長 佐伯浩二君。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

先ほども申しましたように就学援助を受けていない世帯につきましては、子どもさんが多ければ、その分、給食費がかかるような状況にはなっております。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8 番（福本耕太君）

就学援助を受けてるお家であった場合は、負担は1割になるんですよ、1人に対して。1人1割を4人分という話になると思うんですけど、子どもが多い世帯は就学免除を受けられるわけで限らないんですとしたらですね、やっぱり子どもが多い世帯ほど、しかも免除を受けられない世帯ほど、負担が重くなっているという実情はやっぱり変わらないんじゃないかなとちょっと思うんです。

やはり少子化の問題というのは、わが町にとっては非常に大きな問題で、子どもを増やしていく、安心して産み育てられていく、産み育てられるまちにしていく上ではですね、やはり子どもが多い世帯ほど負担が重くなるという制度を何としてもこれ解消していくようにしないといけないと思うんですけど。

ここから提案なんですけどね、例えば、まずはですね、全面的にも無償化するのは難しいというのであれば、子ども1人については給食費をもらおうと、だけど2人目以降についてはなしにするとか、1人についても、その家庭の状況に合わせて免除、制度を使っていくとか、2人目以降の無償化の実施とか、そういうのにまず取り組んでいただけたらいいんじゃないかなというふうに思うんですけど、これちょっと町長にお伺いしたいんですけど、どう思いますか。

○議長（高橋正博君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

2人目以降という部分のことについて、まず、この子育てという部分の整備については、先ほど三木議員も、また、小川議員に対しましてお答えいたしました。私は子育てしやすい環境の整備をやっていく、そういうことに対して矛盾しているような発言になると思いますが、ちょっと、今の考えを述べさせていただきます。

現段階では教育総務課長の答弁のとおり、給食費を無償化することは困難であると考えております。

福本議員の先ほどのご提案もですね、取り入れながら考えていきますが、今のところでは、大変厳しい状況でございます。

そのあたりでご理解いただきたいのは、子育てしやすい環境の整備については、検討中のものも含めて、放課後児童クラブの定員の拡充、特別支援教育支援員充実、老朽化しているこども園の園舎整備、不妊治療、不育治療費助成、エンゼル祝い金の拡充、こども園のおむつの持ち帰りの廃止、大学生や専門学生に対しての給付金の支給などを進めております。

また、子育てしやすい環境の整備を進めていきますが、同時に、先ほど述べたとおり、その子どもたちが将来負担を背負わないような環境づくりも考えていかなければなりません。使用していない町有施設など、今後、整備、解体を進めるには莫大な費用が発生します。しっかりとした方向性を定めていかなければ、次の世代に大きな負担をかけることとなります。

土庄町の決算状況、また、土庄町の財政状況が今後さらに厳しくなることは、現在の決算状況、また総務建設常任委員会中、中期財政計画について説明させていただき、このときにはご理解していただいていると思います。

町民の皆さまの豊かな環境づくりに努めてまいりますので、何とぞご理解のほどよろしく願いいたします。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

財政が厳しいという話ですけども、全国的に財政が厳しいのはよく分かっております。その中で20億円の財政調整基金等もあります。

さっき具体的に、2人目以降無料化もちょっと検討を、ということでお話ししましたけども、そういった段階を踏んだかたちで、少しずつその無償化に向けた歩みを進めていただきたいなということをお願いしたいと思います。

それと未収金について、土庄町で発生してないっていう話なんですけど、業務負担、実際お金を集めてるのは一緒なんで、やっぱりその未収金があるか、ないかということでの負担というよりは、集金そのものが業務に乗っかってきていることですので、やっぱりこの集金の問題で、問題なってるのは集金そのものに対する負担をなくそうという流れですので、その辺の理解をちょっと進めていただけたらありがたいなと思います。

では、次の質問に入りたいと思います。

大学生、専門学校生に物価高騰支援金として1人1万円の支給をしたらどうかということですか。

物価高騰に苦しむ大学生、専門学校生に支給方法としてはですね、コロナ支援金の際の奨学金を受けてる人だけという、こういう失敗をですね、繰り返さずに、

学生のいる家庭、子どものいる家庭の人に対して申請をしてもらうというかたちで、SOSを受け止められるような仕組みでやってほしいと思うんですけども、先ほど町長のほうから、私のときじゃないときにやりますという話があったんで、実施されるということは分かったんですけども、やり方ですね、どういうやり方でしょうと思っているかの説明をお願いしたいと思います。

○議長（高橋正博君）

教育総務課長 佐伯浩二君。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

実施方法につきましては、確かに福本議員おっしゃるように、令和2年に実施した大学生に対する給付金につきましては、町の奨学金を受けてる方について約30名程度でしたが、その方だけに給付金があったというふうなこともありまして、他市町の状況を見ましても、例えばホームページで公募するとか、町広報で周知をするとか、そういうふうな方法を取っているところもありますので、ちょっとこの件につきましては、非常に大学生を把握するのが難しいという、そういう難点があります。その辺もちょっと、こちら内部で協議して、できるだけその公募するようなかたちの申請の方法を検討していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

今、私が言ったそのSOSを受け止めるというやり方で検討するってことですので、ぜひそれで進めていただきたいと思います。困ってる人のところにしっかりと支援が届くようにお願いしたいと思います。

3つ目ですけども、今、こちらかな、旧土庄高校のグラウンドなんですけども、庁舎が完成して、今グラウンドの使用ができるようになってるんですけども、実際にはいろんなものがあつたりとかして使うのが難しいと、けがとかの要因にもなるということで、「整備までちょっと待ってほしい」という、以前からお話があったんですが、これだけ広いやっぱりグラウンドっていうのは、町内の中にも1カ所もなくでですね、いろんな競技するのにも使えますので、水はけとかいろんなことあると思うんですけど、まずはですね、使える状況、最小限の費用をかけてですね、使える状況にしていきたいと思うんですけど、来年度の予算の中で、どのように考えておられるか、答弁をお聞きしたいと思います。

○議長（高橋正博君）

生涯学習課長 宮原正行君。

○生涯学習課長（宮原正行君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

刈崎第二グラウンドにつきましては、令和 3 年 7 月まで新庁舎建設事業の事業用地として使用してまいりました。その後、東洋紡績跡地整備事業工事の影響に伴い、職員の臨時駐車場として断続的に使用しているところでございます。

「グラウンドを使用したい」との声もいただいておりますが、ここ数年の間にグラウンドの排水機能が低下し、降雨後、グラウンド内に雨水が溜まり水溜りができる状態になっていることや、グラウンド表面に碎石があることから、現況ではグラウンドとしての利用が難しくなっております。

改修工事につきましては、令和 5 年度に実施設計を行い、その後、工事着手を経て、できるだけ早く供用開始を行いたいと思っておりますので、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8 番（福本耕太君）

最後の令和 5 年度に実施設計、そこの部分をもう 1 回ちょっと細かく言ってもらっていいでしょうか。

○議長（高橋正博君）

生涯学習課長 宮原正行君。

○生涯学習課長（宮原正行君）

令和 5 年度に実施設計を行う予定でございます。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8 番（福本耕太君）

令和 5 年中に使えるようになりそうでしょうか。

○議長（高橋正博君）

生涯学習課長 宮原正行君。

○生涯学習課長（宮原正行君）

今、申し上げれることは、令和 5 年度に実施設計を行いその後、工事着手を経て、できるだけ早く供用開始をしたいと思っておりますので、ご理解願います。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8 番（福本耕太君）

できるだけ早くお願いしたいというふうに思います。

次の質問に入ります。

民間住宅のリフォーム助成制度、土庄町でもぜひ実施していただいてですね、地域経済活性化を進めていただきたいというふうに思っております。

自主財源をどういうふうに確保していくかという問題ともですね、重なって、今も全国では、かなりの自治体で住宅リフォーム助成制度、予算規模については自治体ごとに違うんですけども、やってまして、かなり自主財源のもとになっているということで非常に効果が上がっております。

以前にですね、三枝町長の時代に、「消費税が10%に上がったから景気が悪くなるから、景気刺激策として実施する」というふうに、課長のほうから答弁があったんです。実際に10%に上がった後に、実施されていないんですけども、議会で、建設課の課長が公言された内容ですので、これをどういうふうに今、町長変わっておりますけど、公約についての、どうなるのか、どういう扱いになるのかということも含めてですね、お考えをお聞きしたいと思います。

○議長（高橋正博君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

以前に、「消費税が10%に上がったから、リフォーム助成を実施する」と議会で公言しているとのことですけれども、「消費税アップに伴いまして建設業界の景気動向を調査し、検討する」とお答えしております。

消費税が10%となった令和元年10月の約4カ月後の令和2年1月に建設労働組合小豆支部にアンケート調査を行ったところ、当時は変化が見られませんでした。その後、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けているものと思われます。

建設課といたしましては、各施策の優先度により事業を計画・執行しているところであり、土庄町民間住宅耐震化リフォーム支援事業は、耐震対策と併せて住宅リフォームを行う町民に対し助成をすることにより、民間住宅の耐震対策に繋げていきたいと考えていますので、現在のところ、新たな経済政策としてリフォーム助成を行うことは考えておりません。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

今ずっと耐震対策と一体にという話なんですけども、この住宅リフォーム助成制度っていうのは地域おこし、地域の経済活性化を目的に全国で実施されているんですね。もちろん、その耐震診断、耐震化っていうことは大事なことですけども、これをやった人にだけリフォーム助成をするというふうになりますと、非常に数が減ってしまう、工事の数が減ってしまうんですね、経済、地域経済の活性化にはやっぱりつながらないんですよ。

以前、建設課長にお聞きしたときに、こういうやり方をやっている自治体って、

全国で何%ですかって聞いたら、0.02%だというふうにおっしゃった。逆に言えば、もうほとんどの自治体が、耐震診断、耐震化と一体ではなくて、リフォーム助成そのもので、経済の活性化をやっているんですね。

これはもちろん経済活性化で税収も増えるし、仕事も増えるしということはあるんですけども、やはり、今コロナも併せてですが、景気がどんどん、どんどん下に下がって行ってます。そういう中で、リフォームっていうのは、仕事がいرونなところに回っていくんですね、幅広く仕事があるんですけども、そういう職人さんたちを育てていくという役割にもなりますし、儲かるか儲からないとか、税収だけの問題だけじゃなくて、土庄町の中でそういう仕事を担ってくれる担い手をつくっていくという意味でも非常に大事な役割を持ってるんです。

景気がやっぱりどんどん、どんどん下がっていく中でリフォームだけしようと思っても、お金が高いからできないっていうふうになると、結局職人さんもいなくなってしまふというふうになってしまふんで、そういう職人を育てるという面も含めて、需要を喚起していくことが大事になってるんです。調査したというふうにおっしゃってますけど、建設労働組合は、この住宅リフォーム助成制度を「土庄町でもやってほしい」という要望を土庄町に上げてるはずなんですよ。この質問やったとき、10%の話やったちょっと前だと思うんで、6、7年ぐらい前に、建設労働組合のほうから、「土庄町でも住宅リフォーム助成制度やってほしい」という要望が上がったと思うんですけど、上がったかどうかわからず、まずちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（高橋正博君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

建設組合からの要望は、令和元年8月26日に住宅リフォーム助成について高齢者や低所得者などの生活困難者が利用しやすいようにという内容でいただいております。

また、本年令和4年5月9日に合わせて同趣旨の要望をいただいております。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

やっぱり要望上がってるんですね、建設組合から。建設組合のほうの状況が悪くなってるかどうかということで、変わってないというふうにさっきおっしゃったんですけども、変わってないって言いながらも、結局これは仕事起こしに大きくつながるという点で、ずっと要望を上げてるっていうことは、やっぱり、これが職人を作っていくってこととか、それから、地域経済に大きな役割を果たすって

うことを、彼らも訴えておられるということですので、私も建設組合の人たちと一緒にですね、町のほうに、ぜひ、住宅リフォーム助成制度実施をお願いしたいというふうに思いますので、前向きな検討をお願いしたいと思います。

大体やっぱり、投資した金額の10倍から20倍の効果が上がるんですよ。例えば、1000万円土庄町が予算組んだら、10倍ですから1億円なんですよ。3000万円組んだら3億円ぐらいの仕事につながる。そしたら、町のほうの税収にもつながってくるんですけども、土庄町を理解として、これやった場合に、大体どのぐらいの経済効果、波及効果があるんじゃないかなというふうに考えておられるか。概算でも結構ですので、考えておられたら言っていただけたらと思うんですけど。

○議長（高橋正博君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

経済効果というものを試算したことがないんですけども、今のお話の中の10倍ということであれば、例えば1000万円の予算であれば、1億円の効果があるというような流れになるのではないかと考えております。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

小豆島町がね、大体1000万円入れて、1億数千万円の仕事生まれてます。ずっとやり続けてきて、リフォームしたい言うてる人たちの順番も、ずっと順番待ちになって追加予算もやってるということですので、ぜひ、検討していただきたいと思います。

次の質問に入りたいと思います。

土庄港の駐車場の無料化および値下げの実施をということで、土庄港の町営の駐車場について、特別会計が黒字になる5年後には値下げを検討しているという話が、以前、委員会の中であったと思うんですけども、その後どういうふうな状況になってるか、あれから何年たったんですかね。ちょっと私も何年たったか覚えてないんですけど、進捗状況というか、教えていただけたらと思います。

○議長（高橋正博君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

平成30年3月定例会において、「土庄港町営駐車場は、港湾整備事業特別会計で運用されており、将来的に黒字化が実現したあかつきには、土庄港周辺全体



の駐車場について調査し、駐車料金の見直しを検討したい」と答弁しております。

その後、新型コロナウイルス感染症拡大により利用者が激減し、黒字化が遅延している状態であります。黒字化となれば、見直しを検討したいと存じますが、土庄港周辺の全体の駐車場状況について調査するとともに、港湾整備の維持整備に係る費用等も勘案して検討していくことになると考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

土庄港からですね、距離が遠いところに住んでおられる、そういう距離が遠い地域に住んでおられる方については、どうしても、高松に行く量多いですので、岡山に行くよりはですね。どうしても駐車場使わなければならないということがあって、こっちで駐車場借りてる人もいるんですけども、遠い距離の人の場合は、歩いていくとかそういうことはもう現実的に難しいと思うんです。

以前にもそういう、例えば大部、北浦、四海などの、肥土山もそうですけども、そういうちょっと一定の距離が遠い人のところにも減額措置等なんかも検討してほしいとか、それが一つ、今言うたんですけど、それと青天井に上がっていく仕組みになってますよね、車置いといたら。入院したりとかすると、高松行って、ほんでその場合、入院せなあかんとかで、車をずっと置いとかなあかん人とかもあるんですよ、突如としてね、4日とか5日とか。そういう人に対する対策として、今のその、青天井で上がっていく料金の仕組み変えて、一定以上上がらないようにしようと思っているんだということが建設課のほうから、以前そういう話があったように思うんです。ちょっと記憶違いだったらごめんなさいね。そういう方法もあると思うんですけど、それについてはどのようにお考えになられるかなということをお伺いしたいんですけども。

○議長（高橋正博君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

遠方の方に関しましては、その地域地域での料金をというのはちょっと、どんな方法があるか、ちょっと今のところ思い浮かぶものがないんですけども、そういう方法がないかということとはちょっと、検討してみたいなどは考えます。

また、青天井につきましても確かに、入院される方がいらっしゃると思いますので、その辺も合わせまして、どのくらいの期間になるかというのは今後の検討課題と考えますけれども、併せて検討していきたいと考えます。以上です。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

2つ目の、天井、つけてほしいと言うてた、ごめんなさい、ちょっと何と言っていた分からなかった。

○議長（高橋正博君）

建設課長 濱口浩司君。

○建設課長（濱口浩司君）

お答えします。

長期間の方に関しましても、今後検討したいと思うんですけども、どのぐらいの期間を猶予するかとか、10日にするとか、20日にするとかその辺ちょっと、今後の課題として検討していきたいと考えております。以上です。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

私の質問を終わりましたので、以上で質問終わりたいと思います。